

ほ育苗成技術の安定的発展を目指して

十勝ほ育苗成牛受託協議会



ほ乳技術を説明する

協議会では各受託組織の生産管理や業務管理などの情報共有を図り、業務運営の安定化を進めるとともに十勝の酪農生産に寄与することを目的に活動しています。

十勝ほ育苗成牛受託協議会会員

株式会社 シー・プライト	豊頃町
株式会社 希興	浦幌町
農畜組合法人 カンファゲート	中札内町
東豊組合は畜組合	広尾町
豊似は畜利用組合	広尾町
農畜組合法人 清流ファーム	清水町
陸別町農業協同組合	陸別町

桐山／近年、十勝では酪農家が牛乳増産を効率的に進めるため、業務の分散・分業化が進められています。搾乳牛や乾乳牛への給餌面ではTMRセンターによる一括生産と配送供給。粗飼料の生産ではコントラクター組織への業務委託、そして子牛のほ育苗成においては専門の預託牧場で一定期間預かる預託システムがあります。

十勝ほ育苗成牛受託協議会は、子牛を専門に預かる十勝管内の7つの民間預託牧場や農事組合法人と16社の賛助会員で構成する組織で、平成26年4月に設立されました。協

十勝の酪農家における子牛のほ育苗成の現状と課題について、十勝は育苗成牛受託協議会会長(株式会社シー・プライト代表取締役)の桐山靖朗さんにお話を伺いました。

哺乳・育成を分離化の動き



大切な成長期の管理を担う



桐山／各施設により若干の違いはありますが、基本は生まれて3〜5日の雌の子牛を預かり月齢10カ月までの期間、育成管理を行っています。子牛のほ育苗成は、酪農家にとって大変な労力を要します。子牛専用の餌の配合、常に体調の変化・異常がないか目を配り、病気になるまでの迅速な対応など、その手間は親牛とは比較になりません。子牛のほ育苗成を通常から切り離し、専門業者に委託すること



ができれば、生産者は搾乳牛の管理に集中することができ、生産量を上げていくことが可能です。

私たち預託牧場は子牛を預かり育成するための専用の施設導入舎、口ボスト保育舎、離乳舎、月齢に応じた子牛舎、麦から舎、堆肥舎などを備え、専門的知識を有したスタッフが常駐し、預かった子牛を健やかに大きく育てお返しするのを主な業務としています。

この成長過程の育成如何にかぎで、その後の健康維持、乳量に大きく影響するため、育成管理責任は大変重要です。また万が一子牛が病気で死んでしまうような不測の事態も極力避けなければなりません。協議会では個々の会員の技術向上を図り、生産者の期待にこたえ、定期的に研修会を開催し、緊密な情報交換を図り、そこで得られた情報や技術を、農協や近隣の生産

研修風景 相互農場視察(株)希興

者にフットバックするなどの活動に力を入れています。

協議会全体では、年間約4十頭以上を受託しており、浦幌町の株式会社希興を筆頭に、南十勝と陸別町の牧場、農事法人で現在、組織当たり7〜8百頭規模で受け入れを行っています。

さらなる技術向上と今後の課題



桐山／今月開催した現地研修会では、協議会メンバーの農場を視察し、哺乳プランの内容や代用乳の選別、添加剤プログラム、下痢発生時の対応などについて、各農場代表を講師に技術検討を行いました。また今年度は道北や別海町への管外視察も行う予定です。

協議会の事務局運営、研修会開催にあたっては、十勝総合振興局農務課・十勝農業改良普及センターの支援を仰ぎ、農協や生産者との情報共有についても協力をいただいています。

冒頭にもお話ししたとおり、十勝の酪農は規模拡大の方向で進んでおり、生産者の負担軽減のためのインフラづくりが大変重要です。しかし、管内のほ育苗成牛受託施設では、受け入れ数には限界に近づいているのが現状です。設備拡大に向けては、人預託施設、飼料確保や堆肥処理など、大規模な投資が伴うだけに難しい課題でもあります。

私たちは日本を代表する生産地である十勝酪農の発展、生産者の経営安定や労働負担軽減のために、これからも連携を深め、技術の切磋琢磨(せつさくさく)を図り、地域に貢献していきたいと考えています。



豊頃町農業協同組合

豊頃町中央若葉町12番地
電話(0155)574-2101
FAX(0155)574-3688

PickUP

第13回 国際トラクターBAMBA 7/12(雨天決行)
●会場/更別村商店街 更別村商店街
●開催先/国際トラクターBAMBA実行委員会(更別村加工業内)
●問合せ先/国際トラクターBAMBA実行委員会 2015-52-2010

企画制作/北海道新聞部広支社営業部

十勝ほ育苗成牛受託協議会会長
(株式会社シー・プライト代表取締役後)
桐山 靖朗さん

生きた財産を大切に育てる

近年、十勝の酪農は生乳生産量が拡大しており、それに伴い戸当たりの乳牛飼養頭数も増えています。しかし、十勝の酪農経営は家族単位が主で労働力に限りがあり、生産規模の拡大を推し進めるためには、業務を分散して生産者の負担を軽減する支援インフラづくりが求められています。

今月のとちか酪農家あいるでは、子牛のほ育苗成牛受託を専門に行う牧場や農業生産法人で構成する十勝ほ育苗成牛受託協議会の活動についてレポートします。

